

★ 提案2の賛成意見 ★

提案2に賛成することにより、California州内でホームレス状態にある最も立場の弱い人々に対し、実績ある解決策を提供できます。提案2は住宅を建設し、人々の手が届く精神保健サービスを実現します。これは、精神病によってますます複雑化したホームレス問題の軽減に欠かせない策です。

13万4000人以上が路上へと追いやられ、歩道で身を寄せ合い、高架下や川岸で夜を明かしています。このような危険な環境で暮らす人々のうち3分の1は、精神病を抱えたまま治療を受けられずにいます。

そして毎年、重い精神病を持つ何百人もの人々が苦しみながら孤独死を迎えます。しかし、そのような死は防ぐことが可能です。

近隣住民や企業各社、消防・救急サービスを日々悩ませているこの公衆衛生上の問題に、提案2は立ち向かいます。この提案は、コミュニティ意識を新たに、最も立場の弱い人々の命を救うことに主眼を置いています。

ノープレイスライクホーム (NO PLACE LIKE HOME)

提案2に賛成することにより、「ノープレイスライクホーム (No Place Like Home)」プログラムを通じて2万戸の恒久的な支援住宅が建設されます。これによって、精神衛生および薬物使用関連のサービスと、医療やケースマネジメント、教育、職業訓練を連携させたケアが可能となり、治療と持続的な住宅を必要とする人々にこれらが提供されます。

人々に持続的な住まいと精神保健サービスを提供することにより健康で安定した生活が促進されることは、数十年に及ぶ研究で証明されています。この両者を実現するのが恒久的な支援住宅なのです。各種調査で示されているとおり、支援住宅は一般市民による医療費負担を大幅に削減し、社会問題を軽減します。

パートナーシップを強化し、困っている人々を支援

提案2に賛成することは、医師と法執行機関、精神衛生およびホームレス関連サービス事業者間のパートナーシップの確立・強化にもつながります。これによって各所が連携し、精神病やホームレス状態に苦しむ(あるいはホームレス化する可能性が高い)各個人へのニーズに応じたきめ細かいケアを徹底できます。

持続的な住まいの確立と精神診療を結びつけないことには、重い精神病に苦しむ人々は医師による診察や専門的なカウンセリングサービスにたどり着けず、いよいよになってから救急外来に駆け込むケースが後を絶たないでしょう。

「精神病を抱えているからといって、社会の重荷という烙印を一生背負う必要はありません。支援住宅は、人々に必要な安定した暮らしを提供し、未治療だった重い精神病からの回復を支えます。これによって彼らを路上生活から連れ戻し、尊厳ある暮らしへと導くことができます」— Darrell Steinberg、精神保健サービス法発案者

提案2は税金ではない

提案2は、納税者に負担を課すものではありません。煩雑な役所手続きを回避し、精神保健サービスを必要とするホームレスの人々のための支援住宅建設に注力するために投票者の承認が必要であるというだけのことです。この州基金はすでに長い間、このような特化型の精神保健および住宅サービス用に確保されているのです。

重い精神病とホームレス状態に苦しむ人々を救うことは、決して簡単ではありません。しかし私たちが力を合わせれば、路上生活のまま亡くなる人を減らし、支援住宅の建設と精神診療および精神保健サービスを並行して行うことで必要な介入を果たすことができます。

医師や精神衛生専門家、公共安全専門家、コミュニティおよびホームレス支援者など多くの支持者たちとともに、あなたも提案2に賛成票を投じてください。

ZIMA CREASON、代表

Mental Health America of California (MHAC)

CHIEF DAVID SWING、代表

California Police Chiefs Association

DR. SERGIO AGUILAR-GAXIOLA、元メンバー

国家諮問 Mental Health Council of the National Institute of Mental Health

★ 提案2の賛成意見に対する反論 ★

患者の家族はいくつかの宗教集団との連携を通じ、支持者らが述べているとおりの悲劇的な問題と日々闘っています。私たちはこの提案の標的とされている家族のため、治療や住宅に関する支援を求めて苦労を重ねています。

ホームレス状態から彼らを救うため、綿密に考え抜かれた住宅の選択肢について検討することには賛同しますが、提案2には反対です。この提案は私たちの家族から数十億ドルもの資金を奪い、開発業者や債券所有者、官僚たちに得をさせるものでしかありません。2017年より、コミュニティの意見を受けての各郡の決定に従い、提案63の資金の一部を精神病の重症患者のための支援住宅に充てることが義務付けられました。私たちが切実に必要としている治療基金から公債費用として最大\$56億もの資金(毎年\$1億4000万、40年分)を奪い、住宅問題を扱う州官僚に\$1億を渡すような残酷で無慈悲な提案には断固反対します。官僚たちは精神病の重症患者が抱えている問題を理解してすらいません。

連邦政府は治療基金を削減しようとしています。この状況では、郡レベルで取り組んだ方が効果的に対処できるであろう問題に対し、MHSAによる基金をわずかたりとも投げ売ることなどできません。治療に必要なMHSA基金を削減することは、多額の負担を強

いる間違った方針であり、以下が懸念されます。

問題の放置や治療資源の不足を招く。

長期的な重い精神病の患者がますます住む場所を失い、今よりも多くの患者が施設への収容や路上生活を強いられる。

郡は関係者の関与を経て、必要なサービスへのアクセスを確保するための住宅の取得に最適手段をすでに把握しています。提案2は各地方の意見を無視し、治療と住宅の両ニーズのバランスをあらかじめ決めてしまうものです。

治療によってホームレス化を防止できることを忘れないでください。どうか提案2に反対し、高額な費用がかかるばかりか人として間違っているこの判断を回避しましょう。

CHARLES MADISON、代表

NAMI Contra Costa

GIGI R. CROWDER, L.E.、エグゼクティブディレクター

NAMI Contra Costa

DOUGLAS W. DUNN、議長

立法委員会、NAMI Contra Costa

★ 提案2の反対意見 ★

この提案にはどうか反対してください。「ノープレイスライクホーム法案(No Place Like Home Act)」は本来「官僚と開発業者の懐を肥やす法案」とも呼ぶべきものです。重い精神病に苦しむ人々を犠牲にして最も恩恵を受けるのは彼らに違いないのですから。

NAMI Contra Costaのメンバーの多くは当事者の肉親として個人的に犠牲を払っており、長期的に重い精神病を患いこの法案に反対している人々を真剣に支持しています。ノープレイスライクホーム(NPLH)は、14年前に投票者提案63によって精神病の重症患者のために確保された治療基金から数十億ドルを費やすものであり、連邦による基金削減の危機を踏まえるとなおさら非生産的です。NPLHが承認されればホームレス問題に拍車がかかり、精神病患者の多くが重症化し、路上生活者がますます増える結果となるに違いありません。

提案2の特徴は以下のとおりです。

- **高額な費用:**住宅プロジェクトの資金\$20億を調達するのに最大\$56億(40年債と仮定して\$1億4000万 x 40)がかかります。しかも、その全額が住宅に充てられるわけではありません。住宅問題を扱う官僚たちは早くも自ら\$1億(\$20億の5%)を確保しており、これがプログラムの実施に必要な額よりもはるかに多いことは明白です。また彼らは、公債の償還に必要な額に関係なく毎年\$1億4000万全額を「管理費」として徴収する旨、互いに合意しているのです。さらに、開発業者への助成金(開発業者が競争率の高いCalifornia州の住宅\$20億分の建設・購入に利用する低金利の延払ローン、ならびに最大50%の営業助成金)も、一般市民の実質的な負担をさらに増大させます。
- **不要:**州議会は2017年にAB 727で、提案63の受益者である精神病の重症患者のための住宅資金を郡が支払うことを承認しました。郡は精神保健サービス法による基金を最長10年間蓄え

ておくことができるため、同受益者のための住宅建設費用と賃料助成金の両方をその都度支払うことができるようになりました。つまり郡は本来、これらを目的として公債の利息数十億ドルと無用な州の管理費、開発業者への助成金を支払う必要などないのです。郡は、精神病患者たちの治療その他のニーズを理解していますし、すでにどの住宅が提供可能であるかも把握しています。自らのエリアにおける治療や住宅建設の資金としてMHSAによる基金を最大限有効に活用できるかどうかを判断できるのは、郡自身だけです。

- **無意味:**地区ごとの建築規制(精神病の重症患者のような人々のための支援住宅の建設を非常に困難にしている制限)に対する州の防御策が限定的であるなど、法的障壁が広範囲に及んでいますが、何の対策も講じられていません。地元住民は一般に、彼らのような集団を遠ざけようとあらゆる手を尽くすものです。数十億ドルもの利息と費用をかけて借金をしても、精神病の重症患者向けの支援住宅プロジェクトに対する地元住民の反対によってその資金が使われないままになるのでは意味がありません。

提案63の資金を治療に充てるのが2004年の投票ですでに決まっており、これによってホームレス化が未然に防がれるのですから、この決定に従って資金を活用すべきです。

CHARLES MADISON、代表

NAMI Contra Costa

GIGI R. CROWDER, L.E.、エグゼクティブディレクター

NAMI Contra Costa

DOUGLAS W. DUNN、議長

立法委員会、NAMI Contra Costa

★ 提案2の反対意見に対する反論 ★

精神病は多くの家族を悲惨な状況へと追い込みます。治療せずに放置された人々は慢性的なホームレス状態に陥り、California州内各地で深刻な問題を引き起こす可能性があります。

ホームレスとしての暮らしは精神病を悪化させ、特に深刻な状況にある人々にとって治療がますます困難になります。私たちの近所の路上や建物の軒下、公園などで生活している人々には、今すぐ助けが必要です。だからこそ、提案2は非常に重要なのです。

提案2に賛成することでホームレス問題を解決し、資金の無駄を排除

提案2は、安全かつ持続的な住宅を用意するとともに、精神診療および依存症治療を提供します。

提案2は、精神病や薬物依存症に苦しむ人々に有効なケアを提供しようと日々奮闘している医師や法執行機関、ホームレス関連サービス事業者間のパートナーシップを強化します。

提案2は、納税者に負担を課すものではありません。増税する代わりに煩雑な役所手続きを回避し、各コミュニティが既存の基金を利用してホームレスという緊急性の高い問題に直に対処できるようにするものです。

各種調査にも示されているとおり、提案2は、重い精神病を抱えた慢性的なホームレスの人々を路上生活から救うことができます。

2018年にRANDが行った調査では、提案2のアプローチがLos Angeles郡においてわずか1年で成果を見せ始めたことがわかっています。

- ホームレスの3500人が路上生活を離脱
- 調査参加者の96%が少なくとも1年間プログラムへの参加を継続
- 納税者は\$650万以上を節約(1年間で)
- 救急外来(ER)を訪れる参加者が70%減り、その結果医療費が削減され、緊急救援隊の負担も軽減

詳細はCAYesonProp2.orgをご覧ください。

提案2に賛成することで、慢性的なホームレスの人々に安全かつ持続的な支援住宅および各種サービスが提供されます。これは、精神病患者たちを路上生活から救った実績を持つ解決策です。

DR. AIMEE MOULIN、代表

American College of Emergency Physicians (California支部)

BRIAN K. RICE、局長

California 専門消防士

JANLEE WONG、ソーシャルワーク学修士(MSW)、

エグゼクティブディレクター

National Association of Social Workers—California支部